

仮説

- 赤色の水→甘味が強く感じる
- 黄色の水→酸味が強く感じる
- 緑色の水→苦味が強く感じる
- 青色の水→塩味が強く感じる

本日の流れ

1. 予備実験①：水の色は味に変化を与えるのか
2. 予備実験②：着色料自体の味の影響
3. 本実験：色と味の関係
4. 考察・まとめ
5. 今後の展望

予備実験①
目的
着色料を加えた水道水の味の差を感じるために処理が必要か、どのような処理をするべきかを確かめる。

方法①

A（無処理の水道水に五色をつけた）と、B（水道水に砂糖とレモン汁で味を加えて同じ五色をつけた）を用意した。

	A	B
水質	水道水	水道水
色	赤・緑・紫・黄・無色	赤・緑・紫・黄・無色
味付け	無処理	砂糖 (30g/L) レモン汁 (小さじ3L)

方法②
班員5人で飲み比べ、五味をそれぞれどの程度感じたか評価した。



予備実験②
目的
味の差が着色料自体の味による影響である可能性がある
↓
着色料自体に味があるかを確認する

方法
予備実験①と同じようにA、Bを用意した。班員5人で**目隠し**をして飲み比べ、着色料の色の違いによる味の変化があるかを確認した。

	A	B
水質	水道水	水道水
色	赤・緑・紫・黄・無色	赤・緑・紫・黄・無色
味付け	無処理	砂糖 (30g/L) レモン汁 (小さじ3/L)

+ 目隠し



結果
味
味をつけて実験すると着色料自体の味が打ち消される
五味の差が色による影響なのかがわかる
着色料の色によって味を感じる感覚が変わることがある
着色料の違いによって味の感じ方に差がない

予備実験と本実験での変更点

- ▼被験者を5人→36人に増やす
- ▼評価方法を5段階にし、連想したものを作成してもらった

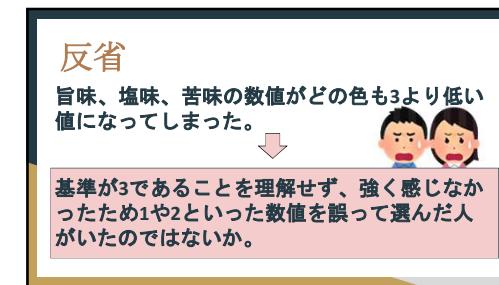
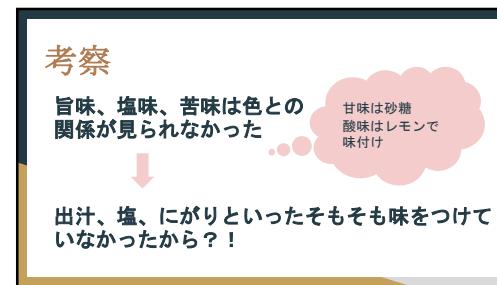
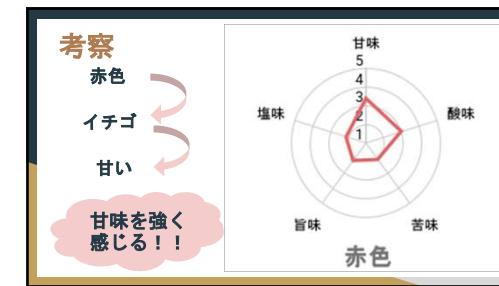
本実験：水の色と味の関係

方法

①1年F組の生徒36人に、砂糖とレモン汁で味をつけた水道水を5色(無色、赤、青、黄、緑)飲み比べてもらった。

方法

②3(無色)を基準に五味をそれぞれどの程度感じたか、5段階で評価してもらった。



結論

- ▼ 味をつけた場合、味の感じ方は視覚に影響を受ける
色から連想される食べ物の味に影響を受ける
- ▼ 味をつけない場合、色によって味を感じさせることはできない

今後の展望



今後の展望

